

たぶんかきょうせいしゃかいづくりすいしんじぎょうほうこくしょ
多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 1 いたくぎょうむめい がいよう
委託業務名・概要

(1) 業務名 「こうなんがいくじどうせいとあふたーすくーるしえん」

(2) 概要（事業の要約・事業の目的など）

しょうちゅうがっこう かよ がいくじどうせいと ほごしゃ ちいき がっこう あんしん すごせる
小中学校に通う外国児童生徒や保護者が、地域や学校で安心して過ごせるように
にほんご がくしゅうしえん おこなった がいくじんきょじゅうしゃ おお こうなんだんち ふじさとしょうがっこう ちく
日本語や学習支援を行った。外国人居住者の多い江南団地がある藤里小学校地区、
がいくせき こ おお かよ ふじさとしょうがっこう きょうりよく ぼこくごがくしゅうこうざ
外国籍の子どもたちが多く通う藤里小学校との協力による母国語学習講座や
こくさいりかいこうざ とおして かつどう ちいき ひろめる
国際理解講座などを通して、活動を地域に広めることができた。
たいけんかつどう ぎょうじ おやこ さんか おやこ こみゆにけーしょん ふかめた
体験活動や行事に親子で参加することにより親子のコミュニケーションを深めた。

2 じっしじぎょう
実施事業について

じっしじき
実施時期

(1) 平成19年7月1日（日）～平成20年2月29日（金）

(2) 実施地域

こうなんし しゅうへんちいき
江南市と周辺地域

(3) 事業の具体的内容

こ じゆく かい の にん さんか
子ども塾（100回 延べ1,504人が参加）

きぼう がいくじどうせいと いえ りよう しゅう かいきょうかなど がくしゅうしえん
希望する外国児童生徒に「ふくらの家」を利用して週3回教科等の学習支援を
じっし とちゅう がいくじんしゅうじゅうちく きぼうしゃ ふえた
実施した。途中より外国人集住地区の希望者が増えたため「ふくらの家」に加えて、
こうなんだんち しゅうかいじょう しゅう かいかいさい
江南団地の集会場で週1回開催するようになった。

つき 月	かいさいび かいさいかいすう 開催日（開催回数）	さんかにんずう 参加人数
7	3,5,6,10,12,13,17,19,20,24,25,26,27,30,31 （15）	のべ 延べ 150
8	2,3,7,9,10,14,16,17,21,23,24,28,30,31 （14）	154
9	4,6,7,11,13,14,18,20,21,25,27,28 （12）	144
10	2,4,5,9,11,12,16,18,19,23,25,26,30 （13）	195
11	1,2,6,8,9,13,15,16,20,22,27,29,30 （13）	234
12	4,6,7,11,13,14,18,20,21,25 （10）	190
1	8,10,11,15,17,18,22,24,25,29,31 （11）	209
2	5,7,8,12,14,15,19,21,22,26,28,29 （12）	228

（パソコン教室 習字教室も併設）
 子ども塾参加者 国籍別数 （見学者・体験者は含まない）

ブラジル	ペルー	中国	フィリピン	エクアドル	計
14	14	4	3	2	37

にほんご教室（70回開催 延べ354人が参加）

言葉の壁を少しでも取り除き、地域や学校に適応できるよう、日本語支援を実施した。

ブラジル人学校に通っている子、学校に行かずに勉強している子、日本に来たばかりでまだ学校での生活に慣れない子、ブラジル人学校から転校した子などに支援をした。実施場所や日時・支援の内容も個々のニーズにあわせるようにしたので、実施場所も個々の参加しやすい場所になり、少人数で回数を多くして対応することとなった。親子参加も促した。

つき月	開催日（開催回数）	参加人数
7	4,11,18,25,28,30（6）	延べ 25
8	1,3,8,10,15,24,28,31（8）	40
9	5,6,7,12,14,25,26,27,28（9）	45
10	3,5,10,12,17,19,24,26（8）	44
11	2,7,9,14,16,21,28,30（8）	40
12	4,6,7,11,13,14,18,20,21,25（10）	50
1	8,11,15,17,18,22,24,25,29,31（10）	54
2	1,5,7,8,12,14,15,19,21,22,26（11）	56

実施場所・・・ふくらの家・団地の集会場・学習等供用施設・学校など

母国語教室（23回開催 延べ305人が参加）

子どもは日本語が早く使えるようになるが、親は上達に時間がかかることが多く、いつの間にか親子の対話が難しくなっている。子ども塾のお母さんの中でバイリンガルな方たちが講師になり、ポルトガル語とスペイン語の教室を開催した。藤里小学校では、5・6年生を対象にポルトガル語の講座をひらいた。子ども塾に通っている子ども達も講師と一しょに活躍をした。

多文化共生社会づくり推進事業（江南市国際交流協会ふくらの家）

つき月	かい さい ひ 開 催 日	さんかしゃすう 参加者数	おも ないよう 主な内容	かつどうばしょ 活動場所
7	17	9	す べ い ん ご スペイン語であいさつ	ふくらの家
8	3.10	18	す べ い ん ご よ み か た スペイン語の読み方	ふくらの家
9	7.18	20	ぽ る と が る ご す べ い ん ご よ み か た ポルトガル語・スペイン語の読み方	ふくらの家
10	18.25.26	30	か き か た " の書き方	ふくらの家
11	1.9.15	30	え ほん を よ も う " 絵本を読もう	ふくらの家
11	25	105	ぽ る と が る ご あ い さ つ ポルトガル語で挨拶	ふじさとしょうがっこう 藤里小学校
12	3.7.14.21	33	ぽ る と が る ご す べ い ん ご か い わ ポルトガル語・スペイン語の会話	ふくらの家
1	15.17.24.29.31	40	"	ふくらの家
2	8.15	20	"	ふくらの家

さんかしゃすう のべにんすう
参加者数は延べ人数

たいけんかつどう (7かいさいのべ232にんさんか)
体験活動 (7回開催 延べ232人が参加)

にほん せいかつたいけん すく こどもたち しぜん なか おもいきりあそんだり たいせい ひと
日本での生活体験の少ない子ども達に、自然の中で思いっきり遊んだり、大勢の人の
まえ ひごろ がくしゅう せいか はっぴょう
前で日頃の学習の成果を発表したりするなどの機会を持った。

おどり とおして にほん ぶんか したしんで だいがくせいす たっふ しどう
踊りを通して、日本の文化に親しんでもらうため、大学生スタッフの指導で「ふくらソ
ーラン」の練習をし、地域の催しで成果を披露した。

また、平日の活動には、仕事でなかなか参加ができない父親などの保護者が参加でき
るよう、秋の野外観察会（9月）、世界の民族衣装ファッションショー（10月）を開催
した。

じっしび 実施日	かつ どう めい 活 動 名	さんかしゃすう 参加者数	じっしばしょ 実施場所
7/30	え か く かい 絵を描く会	18	ふくらの家
8/19	そーらん ふくらソーラン	30	すいとぴあ 江南 (国際交流 フェスタ)
9/9	あき やがいかんさつかい でーきゃんぷ 秋の野外観察会・デーキャンプ	50	かせんかんきょうらくえん ぎふけんかかみがはらし 河川環境楽園 (岐阜県各務原市)
10/14	せかい 民族衣装ファッションショ ー・ふくらソーラン	50	こうなんふらわーぱーく 江南フラワーパーク
11/18	いもほり	20	きそがわかせんしき 木曾川河川敷
1/7	しょうがつたいけん お正月体験	30	ふくらの家
2/22	たご 凧づくり	34	こうなんだんちしゅうかいじょ 江南団地集会所・ ふくらの家

藤里小学校などの地域交流（3回開催 延べ346人が参加）

ア K S I子ども塾を外国人集住地区の江南団地で週1回開き、多くの子どもが参加できるようにした。親も気軽に子どもの教育についての相談に来ている。

イ にほんご教室を江南団地で開き、地域の学校に通っていない子や日本に来たばかりの親子の支援をしている。

ウ 藤里小学校との交流では、子ども塾の子どもと母親が講師になって藤里小学校の児童や保護者と交流した。

実施日	実施内容	参加児童数	参加保護者数
11/17	ちょっと留学 ポルトガル語で話そう	21	15
11/25	ブラジルってどんな国 ポルトガル語で挨拶しよう！ 母国語教室	105	25
12/1	おもしろ教室 外国のことをもっと知ろう	150	30

その他 P T Aの料理教室も開いた。

市民との交流活動（10回開催 延べ470人が参加）

アフタースクールや多文化共生について、多くの人に知ってもらうため、多くの人が集まる機会にPRをしてきた。

実施日	活動名	活動場所	親子参加数
8/4,5,6	江南サマーフェスタ・阿波踊り	江南短大サテライト・江南駅広場	80
8/19	国際交流フェスティバル	すいとぴあ江南	80
10/7,8	市民まつり	すいとぴあ江南	80
10/14	民族衣装ファッションショー	江南フラワーパーク	50
11/20	外国料理教室	藤里小学校	40
12/16	親子ケーキ作り	布袋ふれあい会館	40
12/23	クリスマス会	すいとぴあ江南	100

ア お国自慢の模擬店を開き、地域の人と交流する。

市民まつりでは、カーテン地ファッションショー出演・江南フラワーパーク

開園ステージでは、民族衣装ファッションショーを開催した。

イ 親子で外国のクリスマスケーキをつくる会を公募し、多くの子どもや親たちと交流した。クリスマス会では、市内に住む外国人とも交流した。

子どもの進路を考える会 12月16日（日） 親子 12人参加

日本の教育制度について理解していない外国人にとって子どもの進路については不安である。小学校から中学校に進む事への不安や中学校を卒業した後どんな進路があるかなどよく分かっていない。中学校の進路指導主事を招いて、親子で進路を考える会を開いた。

3 実施結果（実施の効果）

（1）子ども塾の効果

「だだいま！」と、子ども塾にやってきた子どもに、まずは温かいおやつが待っている。母親の手づくりケーキや、製菓会社を退職したボランティアの作ったお菓子里に子ども達の目が輝く。また、ある日は、日本の「おふくろの味」のおにぎりの時もあり、子育て経験者が中心のスタッフたちの温かい心が伝わってくる子ども塾である。

一方では、子どもの学習支援に四苦八苦の連続だった。九九の全然覚えられない子、漢字の苦手な子、文章が読み取れない子など、子どもたちには、母国と日本の文化の違いで理解できないところも数多くあった。

しかし、分からない問題にも挑戦したり、スタッフに付きっきりで質問したりする姿も見られるようになってきている。宿題を中心にフォローすることで、個々の子どもの今困っているところを見つけて、即指導できることもマンツーマン支援の成果である。子どもたちは、学校でも積極的に学習にとりくむようになったと学校側からの評価を得ている。学校からのプリント・テストなども正解が多くなり、子どもも自信をもつようになってきている。

日本語支援のボランティアは20代の大学生から80代と幅が広く、豊富な人生経験や子育て経験を生かして、子どもに接してくれるため、子どもたちにとっては心が開ける場ともなっている。

また、外国人集住地区の江南団地に会場を増やした。このことがきっかけで「ふくらの家」がやってくるという口コミが広まり、親の集まる場所ともなってきた。加えて、集住地区に会場が増えたことで、日本語指導の必要な子が、来日してすぐに子ども塾に来る事も増えて、スムーズに日本語習得ができ、日本の生活にも早く慣れるようになった。4月にフィリピンから来た6年生の子は、夏休みごろには日本語で会話らしい事ができるようになり、近所の友達とも遊ぶようになった。10月頃には2年生程度の教科書が読めるようになり、今では5年生程度の本が読めるようになってきている。日常会話にも不自由しなくなっている。

今年度からは、月に1回誕生会を開き、親子みんなでお祝い会をすることにしました。お母さんの手作りのココナッツケーキにろうそくを立て、お祝いの歌をうたったり、ゲームを楽しんだりした。子どもたちの楽しみの一つにもなり、子ども塾の定着率も高まり、継続した学習で効果的な指導ができることにつながっている。

子ども塾にきている 子どもの声

- ・勉強のわからないことが教えてもらえるよ。
- ・答えがまちがっていてもはずかしくないよ。
- ・家でお母さんにきいても分からないことや、お母さんが出来ないことも教えてくれるよ。
- ・学校のテストで100点取ったら、お父さんがほめてくれたよ。
- ・先生がいっぱいいいて親切だよ。
- ・勉強がすんだら遊べるよ。ともだちがふえたよ。
- ・おやつが楽しみ。家でたべられないおやつもいっぱいあるよ。

お父さんお母さんの声

- ・働くことに精一杯で、疲れて子どもの勉強がみてやれない。宿題をやってきてくれるので子どもと話をする時間ができ、優しくできるようになったので、うれしい。
- ・夜勤が多いため、寝ている時に子どもが騒ぐとついつい怒ってしまっていた。子ども塾で、いろいろな体験をしてくるので、起きてからの話題も多くなった。
- ・イベントに親子でいけるのがたのしみ。ファッションショーもよかった。
- ・子どもについていけるように、もっと日本語を勉強したい。
- ・勉強の事や学校の事で分からない事は、すぐに相談でき、必要なことは、学校へも話をしてくれるのが嬉しい。
- ・子ども塾の回数を増やしてほしい。団地の子も「ふくらの家」に行けるようにしてほしい。

スタッフの声

- ・子どもが可愛くて参加しています。自分で出来る事は限られていますが、自分が勉強してきた事が生かすことができ、嬉しいです。
- ・指導担当者が個々の子どものカリキュラムを把握して、見直しをしながら指導するようになりたい。個々の子どもについて責任を持って支援することが大切である。
- ・今後、中高生向けの日本語指導の需要が増えてくる。また、活動のそれぞれの担当者・カリキュラム・日時・場所等を明確していく必要がある。
- ・親との対話のためにも指導者のポルトガル語やスペイン語の勉強も必要になってきている。
- ・パソコン・習字など専門性の必要なスタッフが入ってくれたことは有難い。
- ・子どもがホッとできる場であり、大家族のようなところでスタッフとして参加できるこ

うれしい
とが嬉しい。

- ・美味しいおやつをいつも作ってくれてありがとう。子どもたちは日本語がよく分からないのに、難しい問題に取り組んでいて、感動の日々です。
- ・学校や地域の人達との交流ができ、お互いに協力が出来た。やりがいのある仕事です。今後も続けたい。

がっこう ちいき こえ
学校・地域の声

- ・本校の子が、生活や学習について、丁寧なお世話をいただき感謝しています。子ども塾に受け入れてもらってから、学校での学習態度や意欲がどんどん変わっていく様子がみられ、アフタースクール事業のおかげと喜んでます。また、学校からのお知らせなどを翻訳してもらって、保護者に意図がよく伝わるようになったので助かっています。
- ・外国から来た子は、日本語も分からず将来について、心配とっていました。親も子どもがんばっている様子を目の当たりに見て嬉しくなりました。これからは皆で応援していこうと思います。
- ・江南市にこんなにがんばっているグループがあることを知って嬉しいです。
- ・今までは、外国人は別の人という意識がありました。しかし、活動を通して、相手の文化をもっとよく知り、それぞれの文化を大切にしていきたいと思っています。

(2) にほんご 教室の 効果

にほんご 教室への希望者は、中学生もおり、教室に来る事ができる時間がバラバラである。今、学校に行ってはいないが、もう少ししたら学校に行くことができるという子どもは、昼間にふくらの家で受け入れた。学校に行っているが、もう少し日本語の勉強が必要な子どもは放課後に支援をした。日曜日や夜にしか勉強できない子どもにも対応出来るよう努力してきた。

サッカー選手をめざして日本にきている子は、練習がない日の夜間に教室に参加し、日常会話が少し出来るとともに、サッカー用語がわかってきたので、練習もより、がんばれるようになったと喜んでる。

中学校3年生で卒業後、すぐに就職する子は、挨拶がしっかり出来るようになってきた。

日本の学校に行くと、いじめられるからとずっと家にいた子や、学校に行くとお金がかかるからと不就学になっていた子にも支援を続けた。ひらかなや漢字の練習をしてるうちに、自信を深めて「学校に行ってみようかな」と言う事になり、今は元気に学校に通っている。

ブラジルの新聞やテレビで子ども塾がとりあげられたことから、地域で日本語の勉強が出来る事がわかり、問い合わせも多くなってきた。

(3) 母国語教室の効果

日本生まれで日本の保育園で育ち、地域の学校に通っている子どもは多い。彼らは自分の母国の事も母国語も親から聞くしかない。家庭では母国語で話し、学校では日本語の授業を受けているが、日本語での生活に馴染んでいくとともに、母国語を忘れていくことも多く、親子のコミュニケーションが困難になるケースもあった。

お母さん先生による母国語教室では、今まで見せたことのない笑顔で、思いっきり、大きな声で話している。親との対話もスムーズにできるようになったと喜ぶ保護者も増えている。先生は、教材も自分達で作り、日本生まれの子にも親切に教える姿がみられた。

学校の依頼もあり、「ちょっと留学」(11月17日(土))「ブラジルってどんな国」(11月25日(日))などの交流事業で、子ども塾の子が日本人児童とポルトガル語で話す機会を持ったところ、地域に住む日本の子どもたちも、外国のともだちの言葉に一層の興味をもつようになった。

母国語教室に参加した人の声

- ・親子で話をするようになってきた
- ・ポルトガル語の絵本を持ってきたので、みんなで読みたい。
- ・母国語で地図やカルタをみんなでつくりたい。

学校でのポルトガル語で話そう会に参加した児童(日本人)の声

- ・挨拶ができたよ。ボンジアと言ったらポルトガル語でかえてきた。
- ・もっとポルトガル語で話したいな。

(4) 体験活動の効果

大学生の指導による「ふくらソーラン」を8月の国際交流フェスティバル・10月の江南フラワーパークのステージで、多くの市民の前で元気いっぱい楽しく、踊りを披露し、子どもたちの自信につながるとともに、活動のPRの場にもなった。

また、秋の野外観察会・デイキャンプ(9月)、世界の民族衣装ファッションショー(10月)は、平日の活動には、仕事でなかなか参加ができない父親が多く参加し、家族の絆を深めることができた。

ふくらソーランを経験した子どもの声

- ・舞台にでるのは恥ずかしかった。でもお客さんが拍手をしてくれたので嬉しかった。
 - ・みんなが「うまいねー」といってくれたので、また、踊りたい!
- 秋の野外観察会「秋を見つける」ワークショップに参加した子どもの声
- ・お父さんもお母さんもいっしょにバスで出かけて、楽しかったよ。
 - ・木の実をいっぱいひろったよ。
 - ・風にも空にも、秋があるんだね。

(5) 藤里小学校などとの地域交流活動の効果
 ブラジルの事を藤里小学校の子ども達と地域の人に紹介した時、「地球の裏側の
 ずいぶん遠くから来て、日本語が話せるようになるなんてすごい努力をしたのですね」
 という声が聞かれた。
 最近では、江南団地の自治会や公団の管理センターも応援してくれるようになり、
 子ども塾の会場を優先して取ってくれるようになった。また、自治会報や掲示板に
 も紹介してくれるようになった。

(6) 市民との交流の成果
 江南市では、地域の中小企業の労働力として、外国人が増え続け、この1年で
 30%程度増加するとともに、江南団地のみならず市内全地域での居住が進んでおり、
 それに合わせて、多文化共生に対する認識を深めていくことが求められるが、地域の
 大きな催しに、積極的に参加していく事で、多くの人に共生の大切さを、外国籍の
 子どもの活動を通して、PRすることができた。活動を認めて応援してくれる人も
 増え、活動に参加するボランティアも30人を越えた。

4 事業の特質

(1) みんなでつくるアフタースクール
 「宿題くらいみんなでやろうよ！」から出発したアフタースクールである。会社を
 退職したばかりの人・元学校の先生・子育て経験のある主婦・大学生・手のあいて
 いるお年寄りなどがスタッフである。もちろん、子どもを預ける外国籍の保護者も大事
 なスタッフである。それぞれが貴重な経験の持ち主であり、特技のある人である。そ
 れぞれの持ち味を生かしながら子どもに合った方法を話し合っ、みんなで企画をし
 てきた。

(2) スタッフの特技をいかした支援
 南米系の子どもは漢字の読み書き、ひらかなは大の苦手である。習字が特技のスタッ
 フが毛筆での書写のコーナーを設けたところ、子どもたちには文字に興味を持ち、
 自然に覚えていった。当初は名前を書くことがやっとの子も、いつの間にか漢字が書け
 るようになっていく。
 また、パソコンの得意なスタッフがパソコンを利用し、ゲーム感覚で計算を
 教えはじめたところ、子どもたちはパソコンに興味を持つようになり、誕生会のお知
 らせなどをパソコンで作成するなどして楽しんでいる
 母国語しか通じない子と親には、母国語が話せるお母さんスタッフが、大活躍で
 支援をしている。

(3) 個々の子どもにあった支援
 子どもそれぞれが生育歴・日本滞在日数・家庭環境など大きくちがっている。なる
 べく個々にあった教材でマンツーマン支援体制をとってきた。

(4) 地域や学校との協力

外国人集住地区のみならず、地域の催しや学校での国際理解講座に参加し、それぞれの国の文化の良さを知らせるようにしてきた。また、地域NPOが主催した町探検は、ふくらの家を拠点に実施してもらい、地域にも協力や理解をよびかけてきた。

5 今後の課題

- (1) 今年度の事業は成果も大きく、次年度も安定した運営が継続していけるように組織面や資金面の強化とともに、より多くのスタッフの確保が必要である。NPO法人「ボラみみより情報局」が作成しているボランティア情報誌「ボラみみ3月号」(2月発行)に、スタッフ募集を掲載いただいたり、江南市をお願いをし、地元で開催されたNHKの公開録画の番組の観覧者1500名にスタッフ募集の案内チラシを配布していただくなど、スタッフの確保に努めている。
- (2) 児童生徒の日本語支援や学習支援を進める時、保護者が共に学ぶことが必要になってきている。
- (3) 多文化共生が地域に浸透するよう、より広報活動を広めたい。

6 その他参考事項

スタッフの研修

- ・外国籍児童生徒サポーターのための研修会（名古屋国際センター）への参加
7月～1月
- ・日本語指導法講座への参加（文部科学省委託・江南市国際交流協会・社団法人日本語普及協会）2/23・24
- ・毎月月末土曜日にスタッフミーティングと自主研修会の開催

発表

- ・江南市国際交流フェスティバル 8/19
- ・江南フラワーパーク開園イベント 10/14

マスコミ等の取材

- ・親子で作るクリスマスケーキ 毎日新聞 12月17日掲載
 - ・ブラジルの新聞「IPCプレス」2月11日掲載
 - ・テレビ「IPCテレビ」2月9日放映
 - ・多文化共生アフタースクール CBCテレビ 3月6日放映
- また、子ども塾に参加する子どもが、NHKテレビ「伝えたいありがとうがある」に出演した。（随時放映）